

平成29年度 田原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

「人間の尊重を重んじる教育を基盤に、生きる力をはぐくむことを目指し、自ら学び続け、豊かな人間性と創造背に富み、心身ともに健康でたくましく社会に生きる生徒の育成」

（2）具体目標（具体的な生徒像）

① 自ら学び実力のある生徒

（知・徳・体の調和のとれた発達を目指し、自ら学び自ら考える生徒の育成）

② 心豊かで思いやりのある生徒

（豊かな心をもち、社会の変化に主体的に対応できる生徒の育成）

③ 健康でたくましい生徒

（心身の鍛錬に努め、健康で活力のある生徒の育成）

（3）生徒指標

「よく学び よく鍛えよ」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校は、子どもたちにとって、「安心できる居場所」であること

学校は、教職員にとって、「生き甲斐や遣り甲斐を感じる場所」であること

学校は、保護者・地域の方々から、「信頼される場所」であること

上記のような学校を目指し、心のふれあいを基盤とした豊かな人間関係に支えられた、温かみのある学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1)○学習指導要領の趣旨を踏まえながら、生徒の実態や学校や地域の特色を生かした教育課程の編成と実施に努める。

(2)学習意欲を高める指導や基礎・基本の確実な定着を図る指導、さらには、個に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習の定着・充実を図ることにより、生徒一人ひとりの確かな学力の育成に努める。

(3)生徒一人ひとりの共感的理解を基盤とした生徒指導の充実を図り、望ましい人間関係を核とする学級集団でくりを通して、豊かな人間性や社会性の育成に努める。

(4)道徳の時間や心の教育の充実を図り、生徒一人ひとりの道徳的実践力を高めるとともに、読書活動や生徒が主体的に取り組む体験活動を通して、生徒の内面に根ざした心を育むことに努める。

(5)○家庭や地域と連携を図りながら、健康管理や体力づくりを推進するとともに、食に関する指導の充実を図り、生徒一人ひとりが将来にわたって心身ともに健康に生活していける指導に努める。

(6)教育活動全体を通して、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの社会的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。

(7)学校内の連携並びに家庭や関係機関との連携を図った特別支援教育を推進し、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細かな指導と長期的な視点に立った支援に努める。

(8)○田原地域学校園内の連携・強化を図りながら小中一貫教育を推進し、学校園教育ビジョンが掲げる生徒の育成に努める。

(9)○愛校心と互助の精神に支えられた望ましい人間関係や教育環境を整備し、良き伝統や地域の特性、教職員の創意工夫を生かした特色ある学校づくりの推進に努める。

(10)○学校・家庭・地域社会との連携を深め、信頼される学校を目指すとともに、地域に開かれた風通しのよい学校づくりに努める。

【田原地域学校園教育ビジョン】

自らすすんで何事にも取り組む子どもの育成

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

◎「生徒一人ひとりの主体性を高める指導の充実」

- 自分のよさに気づき、自信を持たせる指導
 - ・活動の意欲を高め、粘り強く取り組ませる指導
- 自分の力でやり遂げる体験や場の充実
 - ・生徒のよさを認め、ほめて伸ばす指導の充実
- 互いに認め合う集団づくりの推進

◎「学習指導の強化」

- ・自主的・主体的な学習態度の育成強化
- 学びに向かう集団づくりの強化
 - ・わかる授業の展開の強化
 - ・個に応じた指導の工夫
 - ・意欲的に取り組む授業づくりの工夫
- 小中連携による家庭学習の習慣化の強化

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	① 本校の特色ある学校づくりに関する取組みの一つである、GCR活動を、生徒が自主的・主体的に取り組む。 ② 茶道教室を通して、日本の伝統文化に対する興味・関心を高めるとともに、豊かで心穏やかな心情を育む。	B	【達成状況】 生徒・保護者・教職員とともに、肯定的回答が 80%を 超えており、GCR活動や茶道教室等においても計画通り進めることができた。 【次年度の方針】 GCR推進委員会において、今年度の取組みを検証して、次年度も「GCR活動」の更なる強化と、茶道教室等の充実を図りたい。
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	① 教職員は、「協同」意識を持ち、共通理解を図り、教科指導や生徒指導に熱心に当たる。 ② 教職員は、服務について理解し、常に生徒の模範となるよう心掛け保護者からも信頼されるように努める。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 89.4%であるが、保護者の肯定的回答は 75.8%と昨年よりも 6.1ポイント下降した。教職員の肯定的回答は 92.6%であった。 【次年度の方針】 次年度も、「協同」意識を高く持ち、教職員間でしっかりと共通理解を図り、情熱を持って授業や行事に取り組むよう心掛ける。

A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 79.9%	① 教職員は、日課表を基に、生徒にチャイムや学校のきまりを守って生活することの大切さを理解させ、安全・安心な環境整備に努める。	【達成状況】 生徒の肯定的回答が 79.9%であり、保護者の肯定的回答は 80.9%で、教職員も肯定的回答が 85.2%と高く、<u>12.8 ポイント上昇した。</u> 【次年度の方針】 次年度も、学校のチャイムやきまりを守り生活することは、とても大切なことなので、引き続き基本的生活習慣の徹底を図っていきたい。
A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 77.5%	① 授業の中で、「めあて」を黒板に書くことや、「振り返り」を必ず行い、何を学習したのかを、生徒に確認させる。 ② 全教職員により、計画的に研究授業・研究協議を実施し、指導力の向上に努める。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 77.5%であるが、保護者の肯定的回答が <u>68.4%と低い</u>。教職員の肯定的回答は 96.3%と高い。 【次年度の方針】 今年度も、教職員の資質能力を高めるための研究授業や研究協議を計画的に実施した。次年度も、今年度の反省を踏まえ、学力向上を目指した取り組みを積極的に実践していきたい。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 93.7%	① 道徳・学級活動等の授業を工夫し、いじめの根絶に向けた授業内容を心掛ける。 ② 「いじめ防止アンケート」等の教育相談機能により、早期発見に努めると同時に、組織的的確な対応に心掛ける。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 93.7%と高いが、保護者の肯定的回答が <u>63.8%と低い</u>。教職員の肯定的回答は 96.3%である。 【次年度の方針】 道徳や学級活動等における相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践していく。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90.1%	① 教育課程に沿って、計画的に授業や行事等を実施する。 ② 週案により、管理職が教員一人ひとりの授業の進捗状況等の確認を行う。	【達成状況】 生徒・保護者・教職員とともに肯定的回答が 90%を越え、非常に高い。 【次年度の方針】 次年度も、授業の確保と行事等の工夫・改善を行い、適正な教育課程の実施に努めたい。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 96.5%	① 「学校だより」「学年通信」「学級通信」を定期的に発行する。 ② ホームページの充実と、掲載内容の工夫に心掛ける。 ③ 積極的なメール配信の活用。	【達成状況】 保護者・地域住民の肯定的回答は 90%を越え、非常に高い。 【次年度の方針】 次年度も、学校だより、学年・学級通信等を定期的に発行し、ホームページの充実を図り、教育活動等を積極的に配信していく。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80.6%	① P T A や地域協議会と連携し、学校教育活動を通して、交流を深め、支援・協力を得る。 ② 地域社会と連携し、積極的にボランティア活動や行事に参加・協力をする。	【達成状況】 生徒・保護者・地域住民とともに肯定的回答が 80%を越え高い。教職員の肯定的回答は 100%であった。 【次年度の方針】 次年度も、P T A や地域協議会と連携を図り、本校の教育活動を通して交流を深め、地域におけるボランティア活動や行事へ積極的な参加・協力をを行う。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 79.6%	① 学校における施設・用具等の整理整頓及び計画的な修繕と、委員会を中心とした G C R 活動の C（清掃）にも力を入れる。 ② P T A や地域協議会の協力のもと、花壇や学校農園の充実を図る。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 79.6%であり、保護者の肯定的回答が 90%と高い。教職員の肯定的回答は 74.1%であった。 【次年度の方針】 次年度も、P T A や地域協議会の協力を得て、環境整備や花壇・学校農園の充実を継続していきたい。

教育活動の状況		A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 75.3%	① 田原地域学校園（他2つの小学校）において、運営会議を定期的に関き、小・中の連携を図る。 ② 田原学校園地域協議会（他2つの小学校）において、運営会議等を定期的に関き、教育講演会や音楽のつどいを実施する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は75.3%であり、 <u>保護者・地域住民・教職員とともに肯定的回答が80%を越え高い。</u> 【次年度の方針】 次年度も、学校園内2校の小学校と連携を図り、小中一貫の運営会議を定期的に関き、各部会での取り組みをより良いものとする。また、田原学校園地域協議会の連携を図り、学校教育活動に支援・協力してもらい、更に、交流を深める。
		B 1 道徳の時間の充実とGCR活動の推進によって、心の教育がしっかりとなされている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 81.3%	① 道徳の授業を計画的に実施する。 ② GCR活動の充実を図る。 G：(あいさつ)、C：(清掃)、R：(読書) ・小学校に出向いてのあいさつ運動実施 ・清掃コンクール等の実施 ・朝の読書（10分間）実施	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は81.3%であり、保護者の肯定的回答は75.8%であった。教職員の肯定的回答が76.9%で、 <u>昨年度よりも14.8ポイント上昇した。</u> 【次年度の方針】 道徳の授業においては、校内研修により教職員の意識が高く、次年度も継続して校内研修に取組み、授業力向上を図りたい。また、生徒とともにGCR活動の充実も図りたい。
	生活	A 11 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 88%	① GCR活動のG：(あいさつ)を充実させるための取り組みをする。 ・あいさつ運動の推進 ・2つの小学校に出向いて、あいさつ運動を実施する。	B	【達成状況】 生徒・教職員・地域住民の肯定的回答が <u>80%を越え高い</u> 。保護者の肯定的回答は79.1%であり、 <u>昨年度よりも1.3ポイント上昇した。</u> 【次年度の方針】 今年度の取り組みを検証して、次年度は <u>生徒会を中心としたあいさつ運動を充実させたい</u> 。特に、 <u>時と場に応じたあいさつを意識させる。</u>
		A 12 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答は 83.5%	① 授業における望ましい言葉づかいの習慣化を図る。 ② 礼儀正しく、場に応じた言動がとれる生徒を育成していく。	B	【達成状況】 生徒・教職員・地域住民の肯定的回答が <u>80%を越え高い</u> 。保護者の肯定的回答は75.8%であり、 <u>昨年度よりも2.1ポイント下降した。</u> 【次年度の方針】 次年度は、道徳や学級会活動を通して、言葉づかいの大切さや、場に応じた言動がとれるよう指導・助言していく。
		B 2 生徒の行動状況の共通理解を図る。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85.2%	① 学年・職員会議等を通して、情報交換を行い、指導・助言等の共通理解を図る。 ② 生徒指導部会・教育相談部会の定期的な実施を通して、積極的な生徒指導に努める。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定的回答は <u>80%を越え高い</u> 。保護者の肯定的回答は <u>66.7%</u> であり低い。 【次年度の方針】 次年度も、学年・職員会議、生徒指導・教育相談部会を定期的に実施し、 <u>生徒に対しての共通理解を図り、保護者の理解を得られるよう努力する。</u>
	健康・体力	A 13 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 81%	① 昼休み、校庭や体育館において身体を動かす呼びかけをする。 ② 放課後、積極的に部活動に参加するよう促す。	B	【達成状況】 生徒・地域住民・教職員の肯定的回答は、 <u>80%を越え高い</u> 。保護者の肯定的回答は、76.3%であり、 <u>昨年度よりも4.4ポイント下降した。</u> 【次年度の方針】 次年度も、昼休みの運動奨励を促し、放課後の部活動に積極的に参加するよう指導・助言をする。
		A 14 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 76.1%	① 家庭科と連携を図った栄養指導の実施。 ② 給食委員会によるマナー指導。 ③ 「お弁当の日」を活用した栄養指導。 ④ 小・中連携した給食指導の実践。 ⑤ 学校農園を活用した食農体験	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は76.1%であり、保護者の肯定的回答は76.7%であった。教職員の肯定的回答は84.6%であり、 <u>昨年度に比べて12.2ポイント上昇した。</u> 【次年度の方針】 次年度は、小学校や保護者とともに連携を図り、栄養のバランスを考えさせた「食農体験」に力を入れたい。

学 習	B 3 生徒は、健康の保持増進に努めている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 87.3%	① 新体力テストにより、個々の体力を分析し、保健体育の授業を通して体力の向上を図る。 ② 保健の授業の中で、健康の保持増進の大切さを考えさせる。	B 【達成状況】 生徒・保護者・教職員の肯定的回答が 80% とともに高い。 【次年度の方針】 次年度も、新体力テストをしっかりと分析し、保健体育の授業を通して体力の向上を図るとともに、保健の授業においても、健康の保持増進の大切さを考えさせたい。 評価項目を、一部変更する。「生徒は、自分の健康管理に努めている。」
	A 15 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 79.6%	① 教職員の共通理解をした取り組み ・「めあて」と「振り返り」を必ず行う。 ・書く・話す・発表する等を意識した授業展開。 ② 授業の工夫と改善を図る。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 79.6% であり、保護者の肯定的回答は 72.5% で、 昨年度よりも 4.4 ポイント上昇した 。教職員の肯定的回答は 77.8% であり、 昨年度に比べて 12.3 ポイント上昇した 。 【次年度の方針】 学力向上を目指し「わかる授業」を心掛け、生徒が自主的・主体的に学習に取り組む環境を整える。
	A 16 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 76.7% 教職員の肯定的回答 92.6%	① 学習のめあてを明確にし、主体的に取り組む学習態度の育成を図る。 ② グループ活動の有効活用や、個に応じた適切な指導・助言を大切に	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 76.7% であり、保護者の肯定的回答は 74.8% で、昨年度よりも 3 ポイント下降した。教職員の肯定的回答は 92.6% であり、 昨年度よりも 23.6 ポイント上昇した 。 【次年度の方針】 学習活動や発表する場を増やし、生徒が主体的に授業に取り組めるよう工夫する。
	B 4 生徒は、学習目標を理解し、学び方がわかっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 82.4%	① 全教科、「めあて」を板書する。 ② 授業の中で、書く・話す・発表することの大切さを理解させる。 ③ 全教科、授業の「振り返り」を行う。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 82.4% であり、保護者の肯定的回答は 49.5% あり、 昨年度よりも 10 ポイント以上 下降した。教職員の肯定的回答は 63% である。 【次年度の方針】 次年度は、授業の中で学習のめあてを意識させ、学び方を身に付けられるよう指導・助言していく。 評価項目を一部変更する。「生徒は、学習目標を意識して、自分に合った学び方を身に付けようとしている。」
本校の特色・課題等	B 5 教職員は「わかる授業」生徒は、自主的・主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 78.4% 保護者の肯定的回答 54.8% 教職員の肯定的回答 74.1%	① 「わかる授業」では、教材・教具の工夫をする。 ・ICTの積極的活用 ・地域人材の有効的活用 ② 生徒に「学び方」を理解させ、学習に主体的に取り組ませる。 ・グループ学習等	C 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 78.4% であり、保護者の肯定的回答は 62.3% であり、昨年度よりも 7.5 ポイント下降した。教職員の候手の回答は 74.1 ポイントであった。 【次年度の方針】 教職員は、引き続き「わかる授業」に心掛け、そのための事前準備をしっかりと行い、生徒が主体的に学習する体制づくりも行う。 <u>B 5 の学校独自の評価項目は、市共通の評価項目と同じ意味合いのもので廃止するが、この項目には、本校の特色である B 1 を入れる。</u>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○本校では、生徒一人ひとりの主体性を高める指導の充実と、学習指導の強化に重点を置き、教職員間で共通理解を図り取り組んできた。今年度は、特に、学力向上専門員を招いての学力向上校内全体研修会を年間通して 5 回実施することができた。研究授業においては、全教員による公開授業と一つの授業（国語・英語）に絞った研究授業を、全教職員で観て、その後の研究協議に繋げる等、研究テーマを「書く・話す・発表する」と明確にして取り組んできた。 ○特色ある学校づくりについては、<u>GCR 活動の充実と全学年による茶道教室、学校農園の実施等、小学校や地域との連携を図りながら取り組んできた。</u> ○GCR 活動の G：あいさつにおいては、生徒会を中心とした、校内でのあいさつ運動や小学校に出向いてのあいさつ運動を計画的に実施してきた。 ・茶道教室では、講義と実習に分かれて、1 学年から 3 学年と時期を変えて実施し、奥の深い日本文化に触れることができた。 ○学校農園では、学校の北側の畑 550 坪の農園において、1 学年はネギを、2 学年はアスパラとブルーベリーを、3 学年は枝
--

豆を、給食委員会はサツマイモを栽培収穫し、給食の食材に使用したり、2つ小学校にも分けるなど、「食育」を通した小学校との交流にも繋げる取り組みを行ってきた。

こうした取り組みの中「うつのみや学校マネジメントシステム」全体アンケートを実施し、その結果である肯定的回答割合比較表から見ると、教職員は、昨年度に比べ肯定的回答が80%以上の項目が5つ増えた。更に、昨年度と比べ10ポイントの下降が1項目とかなり減った。(昨年度は7項目)また、地域住民は、全ての項目において肯定的回答が80%以上であり、評価が非常に高い。しかしながら、No.18の項目については、教職員は、昨年度と比べ10ポイントの下降があった。また、保護者においては、肯定的回答が80%以上の項目が8項目と昨年度よりも1項目減った。更に、No.20の項目については、保護者は、昨年度と比べ10ポイントの下降が見られた。(1項目)生徒においては、昨年度と比べて肯定的回答が80%以上の項目が2つ減った。(昨年度は15、今年度は13)今後は、肯定的回答が80%を越えているところについては、しっかりと維持していきたい。また、肯定的回答が80%達していない項目についての手立てを考え、特に、保護者の肯定的回答が80%を越える項目が増えるよう努力していきたい。

6 学校関係者評価

地域住民の肯定的回答は、全ての項目において80%を越え高い評価であった。全体的に良い評価を得られ、学校としても励みとなり、今まで以上の連携と協力を図り、生徒のために教育活動の充実に努めていきたい。また、保護者からは、肯定的回答が80%を越えたのは8項目であり、昨年度に比べて1項目減った。全体的に学習面での質問項目の肯定的回答割合が低いことから、No.20の項目「生徒は、学習目標を理解し、学び方がわかっている。」や、No.21の項目「教職員はわかる授業、生徒は、自主的・主体的に学習に取り組んでいる。」等の肯定的回答割合を、今後上昇させていきたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

平成29年度「うつのみや学校マネジメントシステム」全体アンケートの肯定的回答割合比較表をしっかりと分析して、平成30年度の教育活動に生かしていきたい。

◇保護者からの学習面での質問項目の肯定的回答割合が低い。特に、No.4「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」No.20「生徒は、学習目標を理解し、学び方がわかっている。」No.21「教職員はわかる授業、生徒は自主的・主体的に学習に取り組んでいる。」等3つの項目を70%代に確保していきたい。

<取組>

- ・学習意欲を高める指導方法の工夫・改善を目的とした校内授業研究会の実施
- ・習熟度別学習及びT・T授業やかがやきルームによる個に応じたわかる授業の推進
- ・家庭学習の習慣化を図る工夫

◇保護者からの生徒に関する質問事項No.5の「学校はいじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」を80%代に確保していきたい。

<取組>

- ・道徳・学級活動等における相互理解と互いを高め合う集団づくりの実践

○特色ある学校づくりに関する取り組みに力を入れていきたい。

<取組>

- ・農業体験学習：食や農に対する関心と理解を深める。
- ・老人ホーム（さくらの杜）との交流：福祉に関する諸問題や福祉活動に主体的に取り組む態度を養う。
- ・茶道教室：日本の伝統文化に対する興味や関心を高めるとともに、豊かで穏やかな心情を育む。
- ・GCR活動：礼儀・感謝・責任・勤労奉仕・向上心などの態度を養い、自己を高めていく。

G：(あいさつ) C：(清掃) R：(読書)

- ・天文台を活用した理科の授業：河内星の子の協力の下、プラネタリウムや天体望遠鏡を活用して、太陽の黒点等の学習を実施し、天体に関する理解を深め、興味関心を高めていく。